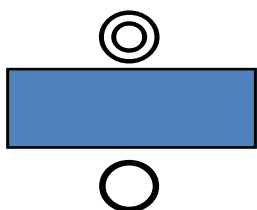


## ☆環境が会話に与える印象 演習シート

下記の①～④の配置で会話をしてみましょう。

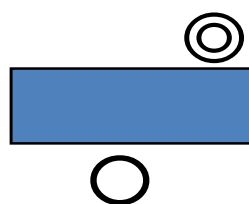
①

<対面して>



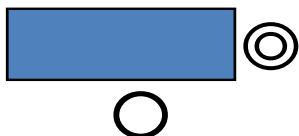
②

<対角線の位置に>



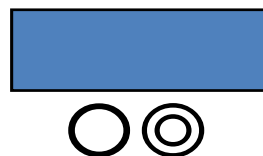
③

<角度をもって>



④

<並んで>



どの配置が、話しやすかったですか？  
(児童生徒となら…？保護者となら…？恋人なら…？)



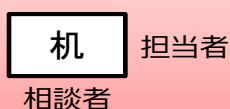
## 話をする人との関係性で 聴いている側の姿勢しだいで

楽しい話もつらくなります！  
話にくいことも話しやすくなります！

### 話を聴くときの座席の配置について

リラックスして話のできる座席配置として、  
90°法という面接技法があります。

<配置例>



1対1で相談をするとき、相談者が担当者の目を見て話したいときには見ることができて、自分の気持ちを振り返ったり内省したりしたいときには、担当者から視線をそらすことができる配置です。



例えば、校長室で話すとき、保護者一人と、担任、校長、コーディネーターで話すとき、先生方はどこに座りますか？学校と保護者が3対1では、保護者が孤独感や威圧感を感じるかもしれません。そのようなとき、保護者の隣に座るという方法もあります。保護者が困ったときに、味方になれる位置ということも考えていく必要があります。

教育相談の状況やメンバー、人数などを考慮しながら適切な座席の配置を考えていくことも、相談の雰囲気を作る大切な要素となります。



傾聴すること、共感、受容

聴くことの大切さ